

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
				記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
330	-	-	-		106.00	106.16	106.00m, 106.16mに73°の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂をみ、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。	106.00	106.16	106.00m, 106.16m: 73°の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂を挟み、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。		
331	106.32	106.60		ゆる割れ目が約10m/m間隔で密に分布。全体が軟化する。一部のゆる割れ目は密着度が低い。	106.32	106.60	潜在割れ目が約10mm間隔で密に分布。全体が軟化する。一部の潜在割れ目は密着度が低い。	106.32	106.60	106.32~106.60m: 潜在割れ目が約10mm間隔で密に分布し、全体が軟化する。一部の潜在割れ目は密着度が低い。		
332	107.30	-		107.30m以深ではφ2~3mmの緑泥石と推定される暗緑灰色斑点が点在する。また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。	107.30	-	107.30m以深ではφ2~3mmの緑泥石と推定される暗緑灰色斑点が点在する。また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。	107.30	-	107.30m以深では径2~3mmの緑泥石の暗緑灰色斑点が点在する。割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。		
333	107.60	108.60		φ5~10mmと大型のかり長石斑晶を多く含む。	107.60	108.60	φ3~10mmと大型のかり長石斑晶を多く含む。	107.60	108.60	107.60~108.60m: 径5~10mmの大型のかり長石の斑晶を多く含む。		
334	108.68	108.71		割れ目ぞいに細片化する。	108.68	108.71	割れ目ぞいに細片化する。	108.68	108.71	108.68~108.71m: 割れ目ぞいに細片化する。		
335	108.71	112.27		CH 堅硬・塊状 白い筋状のゆる割れ目を多く含むが大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目ぞいにはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。	108.71	112.27	CM 堅硬・塊状 白い筋状のゆる割れ目を多く含むが、大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目ぞいにはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。	108.71	112.27	108.71~112.27m: CM 堅硬・塊状、白い筋状のゆる割れ目を多く含むが、大半が周囲と同化し、密着度が高い。ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目ぞいにはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。		
336	108.71	112.27		(コアの形状) IIIランク (岩級区分欄) CH	108.71	112.27	(コアの形状) IVランク (岩級区分欄) CM	108.71	112.27	(コアの形状) IVランク (岩級区分欄) CM		
337	110.30	110.95		50~60°とこれに直交~斜交する10~30°の割れ目やゆる割れ目が多い。ゆる割れ目は密着度が高い。両者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。	110.11	110.95	50~60°とこれに直交~斜交する10~30°の割れ目やゆる割れ目が多い。ゆる割れ目は密着度が高い。前者割れ目は後者割れ目の一部を止めており、一部は後者割れ目が前者割れ目と横断している。切切っている。50~60°の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	110.11	110.95	110.11~110.95m: 50~60°とこれに直交~斜交する10~30°の割れ目やゆる割れ目が多い。ゆる割れ目は密着度が高い。前者の割れ目は後者の割れ目の一部を止めており、一部は後者の割れ目が前者の割れ目と横断している。50~60°の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
338	111.14	111.14		76°割れ目に厚さ1~2mm/緑泥石粘土~シルトをはさむ。 φ0.1mmの微小なセリサイトも点在する。	111.14	111.14	76°割れ目に厚さ1~2mmの緑泥石粘土~シルトを挟む。 φ0.1mmの微小なセリサイトも点在する。	111.14	111.14	111.14m: 76°の割れ目に幅1~2mmの緑泥石粘土~シルトを挟む。径0.1mmの微小なセリサイトも点在する。		
339	111.31	111.34		割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。	111.31	111.34	割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。	111.31	111.34	111.31~111.34m: 割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。		
340	112.00	112.27		70~80°とこれに直交する20~30°のゆる割れ目が約10m/m間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。	112.00	112.27	70~80°とこれに直交する20~30°のゆる割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。	112.00	112.27	112.00~112.27m: 70~80°とこれに直交する20~30°のゆる割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。		
341	112.27	113.27		CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやや多くなる。ゆる割れ目も多いが、上端の112.27~112.32mを除き密着度は高い。割れ目には挟在物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が厚さ1mm程度砂状~シルト状を呈する。	112.27	113.27	CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやや多くなる。ゆる割れ目も多いが、上端の112.27~112.32mを除き密着度は高い。割れ目には挟在物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が厚さ1mm程度砂状~シルト状を呈する。	112.27	113.27	112.27~113.27m: CM 堅硬であるが、上下位に比べ割れ目がやや多くなる。ゆる割れ目も多く、112.27~112.32mを除き、密着度は高い。割れ目には挟在物は分布せず、面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が幅1mm程度で砂状~シルト状を呈する。		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
342	113.27	114.68	CH 堅硬、塊状。 割れ目は少ないが70~80°の高角度系が主体。ゆ 着割れ目も同傾向で密着度が高い。	113.27	114.41	CH 堅硬、塊状。 割れ目は少ないが70~80°の高角度系が主体。ゆ 着割れ目も同系統で密着度が高い。	113.27	114.41	113.27~114.41m:CH 堅硬、塊状。割れ目は少ないが、70~80°の高角度系が主体。ゆ着割れ 目も同系統で密着度が高い。	-		
343	114.24	114.24	80° ゆ着割れ目サイズにφ2~3m/m暗緑灰色の緑 泥石が点在する。	114.24	114.24	80° ゆ着割れ目サイズにφ2~3mm暗緑灰色の緑泥 石が点在する。	114.24	114.24	114.24m:80°のゆ着割れ目サイズに径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点 在する。	-		
344	114.40	-	114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟化、粘土化などの劣化は伴わない。	114.40	-	114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。 軟質化、粘土化などの劣化は伴わない。	114.40	-	114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化、粘土化など の劣化は伴わない。	-		
345	114.68	115.12	CM 70~80° 割れ目が多く、このうち、114.89~115.12m 間は上端厚さ5m/m、下端30m/mで砂状化~片状 化する。	114.41	115.12	CM 70~80° 割れ目が多く、このうち、114.89~115.12m 間は上端厚さ5mm、下端幅30mmで砂状化~片状 化する。	114.41	115.12	114.41~115.12m:CM 70~80°の割れ目が多く、114.89~115.12m間は上端幅5mm、下端幅 30mmで砂状化~片状化する。	-		
346	114.41	114.68	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	114.41	114.68	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	114.41	114.68	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	-		
347	114.68	115.00	(コアの硬さ欄)Bランク	114.68	115.00	(コアの硬さ欄)Cランク	114.68	115.00	(コアの硬さ欄)Cランク	-		
348	-	-	-	115.00	115.12	破砕部 H _j (最新活動面115.00m) 上端80°、下端80°でいずれも直線的に連続。上 下端とも緑灰色のフィルム状粘土を挟む。径10~ 30mm程度の岩片主体で岩片間に浅黄色粘土を網 目状に伴う粘土混じり礫状を呈する。岩片には定向 配列が見られる場合がある。やや硬質。原岩組織 が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片 からなる組織が見られる。にぶい橙色を呈する。幅 30mm。	115.00	115.12	●115.00~115.12m:破砕部 粘土混じり礫状部(H _j) 上端80°、下端80°でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色の フィルム状粘土を挟む。径10~30mm程度の岩片主体で岩片間に浅黄色 粘土を伴う。岩片には定向配列が見られる場合がある。にぶい橙色を呈 する。幅30mm。	-	-	-硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組 織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で 示すこととし、柱状図には記載しない。
349	-	-	-	115.00	115.12	(破砕区分欄)H _j	115.00	115.12	(破砕区分欄)H _j	-		
350	115.00	115.12	(岩級区分欄)UL	115.00	115.12	(岩級区分欄)CM	115.00	115.12	(岩級区分欄)CMに含める	-		
351	115.00	115.12	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Bランク	115.00	115.12	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク	115.00	115.12	(コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Dランク	-		
352	115.12	115.12	80° 割れ目の面に厚1m/m程度の緑泥石粘土がは さまれる。 上盤側厚さ約20m/mは片状化している。	115.12	115.12	80° 割れ目の面に厚1m/m程度の緑泥石粘土がは さまれる。 上盤側厚さ約90m/mは片状化している。	-	-	-	-		
353	115.12	116.80	CH 堅硬、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハン マーの強打でも分離・細片化しない。	115.12	116.80	CM 堅硬、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハン マーの強打でも分離・細片化しない。	115.12	116.80	115.12~116.80m:CM 堅硬で、密着度の高いゆ着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・ 細片化しない。	-		
354	115.12	116.80	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	115.12	116.80	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	115.12	116.80	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	-		
355	115.90	116.10	115.90~116.10m間ではφ9m/m前後の橙色の力リ 長石が多く分布する。	115.90	116.10	115.90~116.10m間ではφ9mm前後の橙色の力リ 長石が多く分布する。	115.90	116.10	115.90~116.10m:径5mm前後の橙色の力リ長石が多く分布する。	-		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名：H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
356	116.33	116.33	116.33	116.33	116.33m で70~80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。 後者は前者で切られる(変位量10m/m右ズレ) 両割れ目の一部に厚1mm/m、交差部で5m/mの緑泥石砂状～シルト(粘土)をはさんでいる。	116.33m で70~80°で湾曲する割れ目と40°割れ目が交差。 後者は前者で止められる。切られる(変位量10mm右ズレ) 両割れ目の一部に厚1mm、交差部で幅5mmの緑泥石砂状～シルト(粘土)を挟んでいる。70~80°の割れ目沿いの細粒部は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	116.33m : 70~80°で湾曲する割れ目と40°の割れ目が交差する。後者は前者で止められる。両割れ目の一部に幅1mm、交差部で幅5mmの緑泥石砂状～シルト～粘土を挟む。70~80°の割れ目沿いの細粒部は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。		
357	116.80	117.32	116.80	117.32	CM 一部に硬さ「C」が混ざるが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるが、ゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟雑物は分布しない。	CM 一部に硬さ「C」を含むが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。 割れ目が多くなるが、ゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 長石は白濁化するものが多い。 挟雑物は分布しない。	116.80~117.32m: CM 一部に硬さ「C」を含むが概ね堅硬な硬さ「B」が主体。割れ目が多くなるが、ゆ着割れ目は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟雑物は分布しない。		
358	117.32	117.39	117.32	117.39	CL 75°割れ目 ぞいに厚さ20~25m/mが風化で軟質化する。	CL 75°割れ目 沿いに厚さ20~25mmが風化で軟質化する。	117.32~117.39m: CL 75°の割れ目沿いに幅20~25mmが風化で軟質化する。		
359	117.32	117.39	117.32	117.39	(岩級区分欄) CL	(岩級区分欄) CM	(岩級区分欄) CMに含める		
360	117.39	118.47	117.39	118.47	CH 堅硬。一部で割れ目多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟雑物は分布しない。	CM 堅硬。一部で割れ目多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。 白色筋状のゆ着割れ目も多いが、大半は密着度高くハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/暗緑灰色の緑泥石が点在する。 割れ目には挟雑物は分布しない。	117.39~118.47m: CH 堅硬。一部で割れ目多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。白色筋状のゆ着割れ目も多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。割れ目に挟雑物は分布しない。		
361	117.39	118.47	117.39	118.47	(コアの形状欄) IIIランク (岩級区分欄) CH	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM		
362	117.65	118.40	-	-	橙色のかり長石が多く、全体ににぶい橙色の色調を呈する。	-	117.65~118.40m: 橙色のかり長石が多く、全体ににぶい橙色を呈する。		
363	-	-	118.20	118.46	-	118.20m・75°、118.46m・76°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。	118.20m・75°、118.46m・76°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。		
364	118.47	119.00	-	-	CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟雑物は分布しない。 長石は白濁化することが多い。	-	118.47~119.00m: CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟雑物は分布しない。長石は白濁化することが多い。		
365	119.00	119.11	119.00	119.11	CL 風化と変質が進み全体が軟化する。	CL 風化と変質が進み全体が軟化する。	119.00~119.11m: CL 風化と変質が進み、全体が軟化する。		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
366	119.11	119.25	破砕帯(主せん断面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯	119.11	119.25	破砕帯(最新活動面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯				●119.11~119.25m:破砕部 119.11~119.16m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。にふい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m:粘土状部(Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質、緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。
367	119.11	119.16	Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10m/角礫状岩片からなり、岩片間は幅1m以下で白色、幅1~3m/mで緑灰色のいずれも軟質粘土をはさみ「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにふい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰(10G4/1)、厚さ30m/m	119.11	119.16	Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10mm角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟み「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにふい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰色(10G4/1)、厚さ30mm やや硬質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
368	119.16	119.18	Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1m/m 石英をわずかに含む軟質粘土(カウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ7~10m/m	119.16	119.18	Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm 石英をわずかに含む軟質粘土(カウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ7~10mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	119.11	119.25		
369	119.18	119.25	Hj 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5m/mlに細片化。岩片間の一部は幅1m/m緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰(10G4/1)、厚さ40m/m	119.18	119.25	Hj 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5mmに細片化。岩片間の一部は幅1mm緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰(10G4/1)、厚さ40mm やや硬質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
370	119.11	119.25	(岩級区分欄)D	119.11	119.25	(岩級区分欄)CL	119.11	119.25	(岩級区分欄)CLに含める	
371	119.25	120.10	CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2m/mの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。	119.25	120.10	CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。 下端の120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。	119.25	120.10	119.25~120.10m:CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留する。割れ目の一部に幅2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化が進む。	
372	120.09	120.10	60°、厚さ10~15m/m緑泥石脈で軟化している。	120.09	120.10	60°、厚さ10~15mm緑泥石化で軟質化している。	120.09	120.10	120.09~120.10m:60°で幅10~15mmの緑泥石化で軟質化する。	
373	120.10	125.90	CH 堅硬塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。長石の白濁化は殆んど認められない。	120.10	125.90	CH 堅硬塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。長石の白濁化は殆んど認められない。	120.10	125.90	120.10~125.90m:CH 堅硬塊状。割れ目に挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮である。長石の白濁化は殆んど認められない。	
374	121.60	121.60	伊着割れ目が開口割れ目化している。	-	-	-	121.60	121.60	121.60m:伊着割れ目が開口割れ目化する。	
375	122.36	122.36	65°割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。	-	-	-	122.36	122.36	122.36m:65°の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。	
376	122.61	122.61	60°割れ目厚2m/mの褐色砂はさむ。	122.61	122.61	60°割れ目に幅2mmの褐色砂挟む。	122.61	122.61	122.61m:60°の割れ目に幅2mmの褐色砂を挟む。	
377	-	-		123.35	125.06	90°~90°の割れ目が連続する。	123.35	125.06	123.35~125.06m:90°~90°の割れ目が連続する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
378	123.63	123.67	割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	123.63	123.67	割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	123.63	123.67	123.63～123.67m: 割れ目ぞいに片状化するが、岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。
379	125.00	-	125.00m以深ではゆ着割れ目は殆んど分布しない。	-	-	-	125.00	-	125.00m以深はゆ着割れ目は殆んど分布しない。
380	125.90	128.05	CM 堅硬であるがゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物ははさまず、ほぼ未風化で新鮮。ほぼ全区間に亘り60～90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。	125.90	128.05	CM 堅硬であるがゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物は挟まず、ほぼ未風化で新鮮。ほぼ全区間にわたり、60～90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。	125.90	128.05	125.90～128.05m: CM 堅硬であるが、ゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目に挟在物は挟まず、ほぼ未風化で新鮮である。ほぼ全区間にわたり、60～90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部はその周辺が片状化する。
381	127.15	127.58	80～90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10m/間隔で平行に分布。全幅約50m/mに亘り片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	127.15	127.58	80～90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布。全幅約90mmにわたり片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	127.15	127.58	127.15～127.58m: 80～90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布する。全幅約90mmにわたり片状化するが、砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。
382	128.05	128.78	CH 堅硬。 128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。	128.05	128.78	CM 堅硬。 128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。	128.05	128.78	128.05～128.78m: CM 堅硬。128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°の割れ目が波打ちながら連続するが、一部を除き片状化は認められない。
383	128.05	128.78	(コアの形状欄) IIIランク (岩級区分欄) CH	128.05	128.78	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM	128.05	128.78	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM
384	128.78	128.78	33°割れ目に砂、φ2～3mm細片化岩片を厚さ1～4m/mはさむ。	128.78	128.78	33°割れ目に砂、φ2～3mm細片化岩片を厚さ1～4mm挟む。	128.78	128.78	128.78m: 33°の割れ目に砂や径2～3mmの細片化岩片を幅1～4mmで挟む。
385	128.78	129.47	CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度が高く、ハンマーの強打で分離しない。割れ目挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-	128.78	129.47	128.78～129.47m: CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。
386	129.47	129.84	CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	129.47	129.84	CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	129.47	129.84	129.47～129.84m: CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。
387	129.84	129.91	(岩級区分欄) D	129.84	129.91	(岩級区分欄) CL	129.84	129.91	(岩級区分欄) CLに含める

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名：H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それらの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)			記事			
コア観察カードから正しく転記されているか?			追加変更した情報が正しく転記されているか?			適正化した記事内容			
<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>						
388	129.84	129.91	破砕帯(主せん断面129.84m)	129.84	129.91	破砕帯(最新活動面129.84m)			
389	129.84	129.85	Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/m石英粒、φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(カウジ)。色調は緑灰色(10G5/1)、厚さ2~3m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。	129.84	129.85	Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続的。φ1~3m/m石英粒、φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(カウジ)。色調は緑灰色(10G5/1)、厚さ2~5mm。一方、上端には厚さ0.5mmの暗緑灰色の軟質フィルム状粘土が挟在し、連続性・直線性が良い。	129.84	129.91	●129.84~129.91m:破砕部 129.84~129.85m:粘土状部(Hc-2) 傾斜70°で上端は直線的に、下端は波打って断続的。径1~3mmの石英粒、径2~3mmの岩片を10~20%含む。軟質、緑灰色を呈する。幅2~5mm。一方、上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフィルム状粘土を挟む。 129.85~129.91m:粘土質岩片状部(Hj) 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。径2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリーブ灰色を帯びた灰白色(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m
390	129.05	129.91	Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリーブ灰色を帯びた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m	129.85	129.91	Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。 色調はオリーブ灰色を帯びた灰白色(7.5Y7/1)厚さ25~35mm 軟質。下位の健岩部との境界が漸移的で直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	129.84	129.91	
391	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Bランク	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Oランク	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Cランク
392	129.91	130.57	CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目、ゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体を示す。割れ目目で薄く砂状化するものがある。	129.91	130.57	CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目、ゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体である。割れ目目目で薄く砂状化するものがある。	129.91	130.57	129.91~130.57m:CL 岩片は堅硬であるが、高角度割れ目やゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し、片状化する。割れ目目目で薄く砂状化するものがある。
393	130.57	131.27	CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが密着度高くハンマーの強打で分離・細片化しない。	130.57	131.51	CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが密着度高くハンマーの強打で分離・細片化しない。	130.57	131.51	130.57~131.51m:CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。
394	130.75	130.90	幅0.5~5m/m白色方解石が脈状に分布。	130.75	130.90	幅0.5~5mm白色方解石が脈状に分布。	130.75	130.90	130.75~130.90m:幅0.5~5mmの白色方解石が脈状に分布する。
395	131.27	132.41	CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同一ハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の鉱物学的変質を受けるが軟質化~粘土化など劣化はない。	131.51	132.41	CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同一ハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の鉱物学的変質を受けるが軟質化~粘土化など劣化はない。	131.51	132.41	131.51~132.41m:CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色筋状のゆ着割れ目が多いが、周囲と同一ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。全体が緑泥石化の変質を受けるが、軟質化~粘土化など劣化はない。
396	131.27	131.51	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	131.27	131.51	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	131.27	131.51	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM
397	132.41	134.33	OM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低いゆ着割れ目が多くφ30m/m前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目接在物は分布しない。	132.41	134.33	OM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低い潜在割れ目が多くφ30mm前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目接在物は分布しない。	132.41	134.33	132.41~134.33m:CM 岩片は堅硬であるが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多く、径30mm前後に分離・細片化する部分もある。ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目に接在物は分布しない。
398	133.00	133.60	133.00~133.60m間はゆ着割れ目目扱いにφ30m/m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。	132.76	133.60	132.76~133.60m間はゆ着割れ目目扱いにφ30mm前後に分離し易いが砂や粘土は挟まない。	132.76	133.60	132.76~133.60m:ゆ着割れ目目扱いにφ30mm前後に分離し易いが、砂や粘土は挟まない。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
399	133.39	133.85	φ2~3mm暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色(明オリーブ灰)する。区間全体が緑泥石化している。	133.39	133.85	φ2~3mm暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色(明オリーブ灰)する。区間全体が緑泥石化している。	133.39	133.85	133.39~133.85m: 径2~3mmの暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色化し、明オリーブ灰色を呈する。区間全体が緑泥石化する。		
400	134.35	134.35	70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2mm/m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15mm/mのφ5~10mm/岩片をはさむ。	134.35	134.35	70~80°で幅1~2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土とその上盤に厚さ15mmのφ5~10mm岩片を挟む。	134.35	134.35	134.35m:70~80°で幅1~2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土とその上盤に幅15mmの径5~10mmの岩片を挟む。		
401	134.33	139.66	CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。	134.33	136.33	CM 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。	134.33	136.33	134.33~136.33m: CM 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆ着割れ目は少量分布するが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。		
402	134.33	136.33	(コアの形状欄) IIIランク (岩級区分欄) CH	134.33	136.33	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM	134.33	136.33	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM		
403	134.56	134.70	134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰)する。	134.56	134.70	134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰)する。	134.56	134.70	134.56~134.70m: 緑泥石化により淡緑色化し、オリーブ灰色を呈する。		
404	134.85	-	134.85m以深では処々にφ10mm前後で橙色の長石が晶出する。	134.85	-	134.85m以深では所々にφ10mm前後で橙色のかり長石が晶出する。	134.85	-	134.85m以深は所々に径10mm前後で橙色のかり長石が晶出する。		
405	135.76	135.76	80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。	135.76	135.76	80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を止めている。切っている(sjと評価される)。80°の割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	135.76	135.76	135.76m: 80°の割れ目は交差する割れ目の一部を止めている。80°の割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
406	136.09	136.56	136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1~2mm/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。	136.09	136.56	136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1~2mmの緑泥石付着、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。	136.09	136.56	136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は幅1~2mmの緑泥石付着、後者は石英脈が密着して分布する。粘土化や砂状化は伴わない。		
407	137.52	137.62	晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。	137.52	137.62	ベグマタイトで、晶洞中に石英、橙色のかり長石、緑泥石などが晶出している。	137.52	137.62	137.52~137.62m: ベグマタイトで、晶洞中に石英、橙色のかり長石、緑泥石などが晶出する。		
408	138.35	138.50	ゆ着割れ目ぞいに開口割れ目化している。	138.35	138.50	ゆ着割れ目沿いに開口割れ目化している。	138.35	138.50	138.35m、138.50m: ゆ着割れ目沿いに開口割れ目化する。		
409	139.02	139.21	緑泥石化で緑灰色化する。	-	-	-	139.02	139.21	139.02~139.21m: 緑泥石により緑灰色化する。		
410	139.37	139.37	70°厚さ2~3mm/m脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1mm/mと微細な黄鉄鉱も点在する。	139.37	139.37	70°厚さ2~3mm脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1mmと微細な黄鉄鉱も点在する。	139.37	139.37	139.37m: 70°で幅2~3mmの脈に緑泥石と石英が共生して分布する。径0.1mmの微細な黄鉄鉱も点在する。		
411	139.66	139.96	CM 割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。	139.66	139.96	CM 割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。	139.66	139.96	139.66~139.96m: CM 割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。		
412	139.66	139.96	(岩級区分欄) CM	139.66	139.96	(岩級区分欄) CH	139.66	139.96	(岩級区分欄) CHに含める		
413	139.96	140.39	CH	-	-	-	139.96	140.39	139.96~140.39m: CH		
414	139.96	140.00	(コアの形状欄) IIIランク	139.96	140.00	(コアの形状欄) IVランク	139.96	140.00	(コアの形状欄) IVランク		
415	140.13	140.13	65°割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟弱化など劣化はない。	140.13	140.13	65°割れ目沿いの一部が細片化するが、軟弱化など劣化はない。	140.13	140.13	140.13m: 65°の割れ目沿いの一部が細片化するが、軟弱化など劣化はない。		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名:H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
416	140.39	140.61	CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。	140.39	140.61	CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土は挟ま ない 。	140.39	140.61	140.39~140.61m:CM 70°の割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土は挟ま ない 。	-
417	140.39	140.61	(岩級区分欄)CM	140.39	140.61	(岩級区分欄)CH	140.39	140.61	(岩級区分欄)CHに含める	-
418	140.61	141.97	CH 堅硬・塊状 一部でゆ着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-	-	-	140.61	141.97	140.61~141.97m:CH 堅硬・塊状。一部でゆ着割れ目が多いが、密着度が高く、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-
419	141.40	142.00	φ20mm前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	141.40	142.00	φ20mm前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	141.40	142.00	141.40~142.00m:径20mm前後の斑模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	-
420	141.70	141.70	141.70m付近で色調が少し変化する。	141.70	141.70	141.70m付近で色調が少し変化する。	-	-	-	・色調欄から読み取れるため記載しない
421	141.97	147.08	CM やや割れ目は多いが岩片は堅硬。白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。一部では開口割れ目化している。	141.97	147.08	CM やや割れ目は多いが岩片は堅硬。白色の筋状を呈するゆ着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。一部では開口割れ目化している。	141.97	147.08	141.97~147.08m:CM 割れ目はやや多いが、岩片は堅硬。白色筋状のゆ着割れ目が多いが、密着度が高い。一部で開口割れ目化する。	-
422	142.32	142.43	割れ目が交差しφ20~50mm程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。	142.32	142.43	50°程度の割れ目が交差しφ20~50mm程度に岩片化しているが砂や粘土は挟ま ない 。	142.32	142.43	142.32~142.43m:50°程度の割れ目が交差し、径20~50mm程度に岩片化するが、砂や粘土は挟ま ない 。	-
423	142.70	142.76	緑泥石化で淡緑灰色を呈する。	-	-	-	142.70	142.76	142.70~142.76m:緑泥石により淡緑灰色を呈する。	-
424	143.48	144.60	φ3~5mmの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部はゆ着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。ゆ着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。	143.48	144.60	φ3~5mmの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部はゆ着割れ目ぞいに50~60°の配列性を示す部分もある。ゆ着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。	143.48	144.60	143.48~144.60m:径3~5mmの橙色のかり長石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。	-
425	143.80	144.00	割れ目間隔20~70mmで45°ゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。	143.80	144.00	割れ目間隔20~70mm<45°ゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。	143.80	144.00	143.80~144.00m:割れ目間隔20~70mmで45°のゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化する。	-
426	144.61	144.68	40~55°のゆ着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。	144.08	145.44	40~60°のゆ着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。	144.08	145.44	144.08~145.44m:40~60°のゆ着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。	-
427	145.37	145.37	50°割れ目ぞいに厚さ15mm/mがφ2~10mm/mlに細片化するが岩片は硬質。砂や粘土ははさまない。	145.37	145.37	50°割れ目ぞいに厚さ15mmがφ2~10mm/mlに細片化するが岩片は硬質。砂や粘土は挟ま ない 。	145.37	145.37	145.37m:50°割れ目ぞいに厚さ15mmがφ2~10mm/mlに細片化するが、岩片は硬質である。砂や粘土は挟ま ない 。	-
428	-	-	-	145.45	145.90	145.45m付近、145.90m付近は、60~80°の割れ目が発達している。	145.45	145.90	145.45m付近、145.90m付近は、60~80°の割れ目が発達する。	-
429	145.88	145.88	70°ゆ着割れ目ぞいに厚さ約10mm/mで緑泥石化し淡緑灰色を呈する。	145.88	145.88	70°ゆ着割れ目ぞいに厚さ約10mmで緑泥石化し淡緑灰色を呈する。	145.88	145.88	145.88m:70°のゆ着割れ目ぞいに厚さ約10mmで緑泥石により淡緑灰色を呈する。	-
430	146.56	147.08	60~70°のゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	146.56	147.08	60~70°のゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	146.56	147.08	146.56~147.08m:60~70°のゆ着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化する。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
431	147.08	150.59	CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したものの、 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟入物は分布せず、未風化で新鮮。	147.08	150.59	CH 堅硬・塊状 開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したものの、 残留しているゆ着割れ目は周囲と同化し密着度が高くハンマーの強打でも分離しない。 各割れ目面にはほぼ挟入物は分布せず、未風化で新鮮。	147.08	150.59	147.08~150.59m: CH 堅硬・塊状。開口割れ目は殆んどがゆ着割れ目が開口したものである。 残留するゆ着割れ目は周囲と同化し、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。各割れ目面に挟入物は殆んど分布せず、未風化で新鮮である。	-
432	148.78	148.78	65° 割れ目面に厚さ1m/m緑泥石が固結粘土フィルム状に付着する。	148.78	148.78	65° 割れ目面に厚さ1mm緑泥石の硬質粘土がフィルム状に付着する。	148.78	148.78	148.78m: 65° の割れ目面に幅1mmの緑泥石の硬質粘土がフィルム状に付着する。	-
433	149.20	149.36	やや割れ目が多いが劣化は伴わない。	149.20	149.36	やや割れ目が多いが劣化は伴わない。	149.20	149.36	149.20~149.36m: 割れ目がやや多いが、劣化は伴わない。	-
434	150.04	150.59	50~80°・厚0.5m/m以下主体の緑泥石細脈が多く分布。 大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。	150.04	150.59	50~80°・幅0.5mm以下主体の緑泥石細脈が多く分布 大半は周囲と同化し開口割れ目化していない。	150.04	150.59	150.04~150.59m: 50~80° で幅0.5mm以下の緑泥石細脈が多く分布する。大半は周囲と同化し、開口割れ目化していない。	-
435	150.41	150.41	緑泥石脈中に厚さ10m/mの石英をレンズ状に伴っている。	150.41	150.41	石英脈中に厚さ10mmの白色岩片を塊状に伴っている。	150.41	150.41	150.41m: 石英脈中に幅10mmの白色岩片を塊状に伴う。	-
436	150.59	151.57	CM 20~40° と70~80° 割れ目が交差しやや割れ目が多くなっている。	150.59	151.57	CM 20~40° と70~80° 割れ目が交差しやや割れ目が多くなっている。	150.59	151.57	150.59~151.57m: CM 20~40° と70~80° の割れ目が交差し、割れ目がやや多くなる。	-
437	151.21	151.21	85° 割れ目の一部で厚さ2m/mのφ2m/m細片化部はさむ。	151.21	151.21	85° 割れ目の一部で厚さ2mmのφ2mm細片化部はさむ。	151.21	151.21	151.21m: 85° の割れ目の一部に幅2mmで径2mmの細片化部を挟む。	-
438	151.50	151.52	石英と暗褐色鉱物が共生して分布。	151.50	151.52	石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。	151.50	151.52	151.50~151.52m: 石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。	-
439	151.57	152.23	CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5m/m程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂ははさまない。	151.57	152.23	CH 堅硬・塊状 割れ目やゆ着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離・細片化しない。 一部は開口化している。粘土や砂は挟まない。	151.57	152.23	151.57~152.23m: CH 堅硬・塊状。割れ目やゆ着割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆ着割れ目の大半は密着度が高く、ハンマーの打撃で分離・細片化しない。一部は開口化する。粘土や砂は挟まない。	-
440	151.47	151.52	緑泥石化と珪化が進み硬化している。	-	-	-	151.47	151.52	151.47~151.52m: 緑泥石化と珪化が進み硬化する。	-
441	152.23	153.85	B 堅硬・塊状で割れ目はわずか。割れ目挟入物は分布しない。 割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。	152.23	153.85	CH 堅硬・塊状で割れ目はわずか。割れ目挟入物は分布しない。 割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。	152.23	153.85	152.23~153.85m: CH 堅硬・塊状で割れ目はわずかに分布する。割れ目に挟入物は分布しない。割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質である。	-
442	152.23	153.85	(岩級区分欄) B	152.23	153.85	(岩級区分欄) CH	152.23	153.85	(岩級区分欄) CH	-
443	152.50	152.67	上下端を厚さ10~20m/mの石英脈に囲まれた「プロトカタクレーサイト」であるが、角礫と基質は同化し硬化している。	152.50	152.67	上下端を厚さ10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。に囲まれた「プロトカタクレーサイト」であるが、岩片と基質は同化し硬化している。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全にゆ着している。	152.50	152.67	152.50~152.67m: 上下端を幅10~20mmの石英脈に囲まれた範囲に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。岩片と基質は同化し、硬化する。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の岩盤、石英脈は完全にゆ着する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名：H27-B-3

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
444	153.20	153.20	153.20m付近にφ10mmと大型・橙色のかり長石斑晶が点在。	153.20	153.20	153.20m付近にφ10mmと大型・橙色のかり長石斑晶が点在。	153.20	153.20	153.20m付近に径10mmの大型の橙色のかり長石の斑晶が点在する。	-
44b	153.25	153.60	60~80°と高角な白色筋状のゆ着割れ目が数本分布するが密着度高く開口化しない。	153.25	153.60	60~80°の高角な白色筋状のゆ着割れ目が数本分布するが密着度高く開口化しない。	153.25	153.60	153.25~153.60m: 60~80°の高角な白色筋状のゆ着割れ目が数本分布するが、密着度が高く、開口化しない。	-
446	153.85	154.60	CH 堅硬、塊状	-	-	-	153.85	154.60	153.85~154.60m: CH 堅硬、塊状。	-
447	154.42	154.60	緑泥石化が進むが硬質。 上端では割れ目が交差し片状化するが微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などはさまない。	154.42	154.60	緑泥石化が進むが硬質。 上端では30~70°の割れ目が交差し片状化するが微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などはさまない。	154.42	154.60	154.42~154.60m: 緑泥石化が進むが硬質である。上端は30~70°の割れ目が交差し片状化するが、微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂などはさまない。	-
448	154.60	156.18	B 堅硬、塊状で割れ目少ない。 155.25m以深で60~90°の高角度白色筋状のゆ着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	154.60	156.18	CH 堅硬、塊状で割れ目少ない。 155.25m以深で60~90°の高角度白色筋状のゆ着割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	154.60	156.18	154.60~156.18m: CH 堅硬、塊状で割れ目少ない。155.25m以深で60~90°の高角度の白色筋状のゆ着割れ目が多いが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-
449	154.60	156.18	(岩級区分欄)B	154.60	156.18	(岩級区分欄)CH	154.60	156.18	(岩級区分欄)CH	-
450	155.25	155.25	70~80°割れ目で交差する一部のゆ着割れ目が切られている(変位不明)。	155.25	155.25	70~80°割れ目で交差する一部のゆ着割れ目が止まっている。切られている(変位不明)。70~80°の割れ目に細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	155.25	155.25	155.25m: 70~80°の割れ目で交差する一部のゆ着割れ目が止まっている。70~80°の割れ目に細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	-
451	156.77	156.80	一部で緑泥石化しφ30mmの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。	156.77	156.80	一部で緑泥石化しφ30mmの斑状に緑灰色化する。軟質化は伴わない。	156.77	156.80	156.77~156.80m: 一部で緑泥石化しφ30mmの斑状に緑灰色化する。軟質化は伴わない。	-
452	156.00	156.14	白色筋状のゆ着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。	156.00	156.14	白色筋状のゆ着割れ目の一部が剥離しかかっているがよく密着している。	156.00	156.14	156.00~156.14m: 白色筋状のゆ着割れ目の一部が剥離しかかっているが、よく密着する。	-
453	156.18	159.24	CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混入するが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。 割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。	156.18	159.24	CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混入するが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。 割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。	156.18	159.24	156.18~159.24m: CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混入するが、長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。割れ目やゆ着割れ目の一部は緑泥石化するが、よく密着する。	-
454	156.50	156.90	割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。	156.50	156.90	18~80°の割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。	156.50	156.90	156.50~156.90m: 18~80°の割れ目が交差し、一部で片状化するが、挟在物は分布しない。	-
455	157.00	-	157.00m以深は20~40°割れ目が主体。	-	-	-	157.00	-	157.00m以深は20~40°の割れ目が主体。	-
456	157.35	157.89	わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。	-	-	-	157.35	157.89	157.35~157.89m: わずかに石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。	-
457	157.83	157.89	30°程度でφ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。	157.83	157.89	30°程度でφ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱く脈状に点在する。	157.83	157.89	157.83~157.89m: 30°程度で径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱く脈状に点在する。	-
458	158.20	158.30	φ10mm前後の大型なかり長石が点在。	158.20	158.30	φ10mm前後の大型なかり長石が点在。	158.20	158.30	158.20~158.30m: 径10mm前後の大型なかり長石が点在する。	-
459	158.54	158.62	158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。	158.54	158.62	158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英脈が分布。よく密着し分離しない。	158.54	158.62	158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英脈が分布する。よく密着し分離しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名・H27-B-3

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
460	158.54	-	158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず堅硬である。	158.54	-	158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず堅硬である。	158.54	-	158.54m以深は石基も緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず、堅硬である。	-
461	159.24	160.40	B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状の仰着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留。全体的には色調がまだら模様を呈する。	159.24	160.40	CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状の仰着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留。全体的には色調がまだら模様を呈する。	159.24	160.40	159.24~160.40m:CH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状の仰着割れ目を多く含むが、堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留する。全体的に色調が模様を呈する。	-
462	159.24	160.40	(岩級区分欄)B	159.24	160.40	(岩級区分欄)CH	159.24	160.40	(岩級区分欄)CH	-
463	159.45	159.45	60° 割れ目が交差する65° 仰着割れ目を切っている。 (見掛け変位量2m/m左ズレ)	159.45	159.45	60° 割れ目が交差する65° 仰着割れ目を横断している。を切っている。 (見掛け変位量2mm左ズレ) 60° の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	159.45	159.45	159.45m・60° の割れ目が交差する65° の仰着割れ目を横断する。60° の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
464	160.40	162.57	CH 堅硬、塊状。上下位に比べや割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。	160.40	161.45	CM 堅硬、塊状。上下位に比べや割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。	160.40	161.45	160.40~161.45m:CM 堅硬、塊状。上下位に比べ割れ目がやが多い。割れ目に挟在物は分布しない。	-
465	160.40	161.45	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	160.40	161.45	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	160.40	161.45	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	-
466	161.10	161.69	φ5m前後と大型な暗緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	161.10	161.69	φ5mm前後と大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	161.10	161.69	161.10~161.69m:径5mm前後の大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。161.10~161.24mは石基も緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	-
467	161.70	161.90	割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂をはさまない。	161.70	161.90	60° の割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。	161.70	161.90	161.70~161.90m:60° の割れ目交差部の一部で片状化するが、岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。	-
468	162.12	162.18	φ10m前後と大型な橙色のかり長石が点在する。	162.12	162.18	φ10mm前後と大型な橙色のかり長石が点在する。	162.12	162.18	162.12~162.18m:径10mm前後の大型な橙色のかり長石が点在する。	-
469	162.46	162.57	80~90° の仰着割れ目が5~20m/m間隔で平行に分布。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	162.46	162.57	80~90° の仰着割れ目が5~20mm間隔で平行に分布。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	162.46	162.57	162.46~162.57m:80~90° の仰着割れ目が5~20mm間隔で平行に分布する。密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。	-
470	162.57	166.65	B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に厚1~2m/mの白色筋状の仰着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。仰着割れ目には石英を脈状にはさむものも多い。橙色のかり長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(ふい橙色など)を呈している。緑泥石化は割れ目や仰着割れ目だけでは殆んど分布せずφ2~5m/mの斑点状などとして晶出している。	161.45	166.65	CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度の仰着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。仰着割れ目には石英を脈状に挟むものも多い。橙色のかり長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(ふい橙色など)を呈している。緑泥石化は割れ目や仰着割れ目だけでは殆んど分布せずφ2~5mmの斑点状などとして晶出している。	161.45	166.65	161.45~166.65m:CH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度の仰着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。仰着割れ目には石英を脈状に挟むものも多い。橙色のかり長石が濃集する部分も含み、にぶい橙色などの橙色系を呈する。緑泥石化は割れ目や仰着割れ目だけでは殆んど分布せず、径2~5mmの斑点状に晶出する。	-
471	162.57	166.65	(岩級区分欄)B	162.57	166.65	(岩級区分欄)CH	162.57	166.65	(岩級区分欄)CH	-